

令和5年産 美里地区の稲作情報

宮城県美里農業改良普及センター

臨時号 令和5年7月27日発行

TEL:0229-32-3115 FAX:0229-32-2225

http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/



水稻の高温障害に注意！！

7月27日現在、管内の水稻の29.7%が出穂期に達しています。過去10年で最も早い出穂盛期（平成27年：7月29日）と同日またはさらに早い出穂盛期となる可能性もあり、非常に生育が早まっています。

水稻は、出穂後20日間の平均気温が26～27度を上回ると、高温障害が増加するといわれています。気象庁による2週間気温予報では今後も高温が予想されています（図1）。高温障害による外観品質の低下を防ぐため、下記の対策を行いましょう。

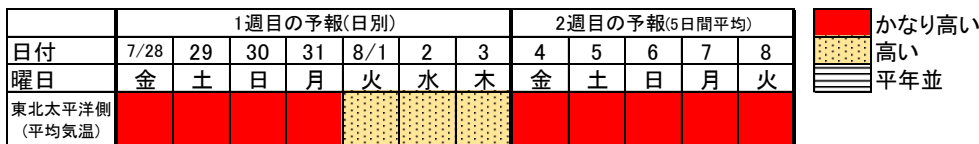


図1 東北太平洋側の2週間気温予報

出穂・開花期前後は、水の吸収量が最も多い時期です。この時期に水分が不足すると、幼穂の発育や開花受精が妨げられ、収量・品質に影響します。

出穂後、高温時の水管理は「かけ流し」や「昼間深水、夜間落水」が基本ですが、難しい場合は浅水で土壌の湿潤状態を保ち、常に稲が水を吸えるようにしてください。

常時深水は、水温が高くなると逆効果ですので避けてください。

出穂後10日間程度経過したら、その後は登熟後期まで根の活力を維持するため、間断かんがいを行いましょう。

高温時は、特に根の活力を登熟後半まで維持することが重要です。

落水は出穂後30日以降に行うと品質が向上します（図2、普及に移す技術第91号）。

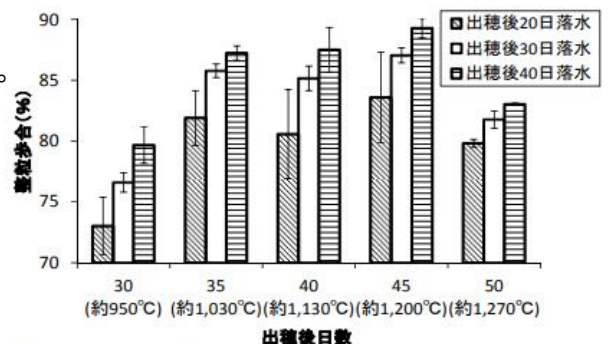


図2 落水時期別の整粒歩合(平成24～26年)

熱中症対策強化期間（5月1日～9月30日）

- ① 高温時の作業は避けましよう
- ② 単独作業は避けましよう
- ③ 休憩&水分補給しましよう

暑い中での作業が避けられないときは、体を冷やすアイテム(ファン付き作業着やネッククーラー)や万が一に備えるための保冷剤などの準備を

～無事に家に帰るまでが農作業です。